



エコマーク ニュース

Eco Mark News

エコマークは公益財団法人日本環境協会が自主的に運営している事業です。エコマークの活動予算は、すべて認定企業の皆様からのエコマーク使用料ならびに商品認定申込者の皆様からの商品認定審査料でまかなわれています。「エコマークニュース」では、「エコマーク事業実施要領」に基づき、エコマーク事業に関する情報を提供しています。

2014.5.1 No.92

「エコマークコミュニケーションフォーラム」を開催しました



「エコマークアワード 2013」受賞者による記念撮影

2月4日、消費者、事業者等のステークホルダーが集うコミュニケーションの場として、「エコマークコミュニケーションフォーラム」を開催しました。本イベントでは、「エコマークアワード2013」の表彰式と、エコマークアワード受賞事例を通して、多様な立場、観点から、環境コミュニケーションツールとしてのエコマークについてパネルディスカッションを行いました。多くの皆様のご来場、誠にありがとうございました。

目次・CONTENTS

特別報告

- 「エコマークコミュニケーションフォーラム」開催 2

新 認定商品のご紹介

- パックご飯にエコマーク認定商品が登場 4
- リゾートホテルとして第1号のエコマーク認定 4

認定基準に関するお知らせ

- 認定基準の制定、改定 5
- 2014年度以降に取り組む新規商品類型の選定結果 6

委員会報告

- 運営委員会、基準審議委員会 6

トピックス

- 2014年度版パンフレット、カタログのご案内 7
- 環境関連イベントへの参加 7

お知らせ

- イベントのお知らせ 8
- エコマーク事務局からのお知らせ 8

特別報告 「エコマークコミュニケーションフォーラム」開催

「エコマークアワード 2013」表彰式

フォーラムの前半では、「エコマークアワード 2013」の表彰セレモニーを行いました。

今回が4回目となるエコマークアワードは、「エコマーク商品をはじめとする環境配慮型商品の製造・販売あるいは普及啓発を通じた、企業・団体の優れた取り組みを表彰する」ものです。また、2012年度、2013年度に認定されたエコマーク認定商品のうち、特に環境性能や先進性、エコフレンドリーデザインなどが優れた商品に授与するプロダクト・オブ・ザ・イヤーの表彰も行われました。受賞団体の皆様、おめでとうございます。

各賞の受賞理由は、エコマーク事務局ウェブサイト (<http://www.ecomark.jp/award/2013/>) をご参照ください。

金 賞	コンビ株式会社 赤ちゃんの将来を考えたベビーカー・チャイルドシート・ベビーラックの回収リサイクルエコアクトサービスの提供  金賞表彰の様子
銀 賞	新日本流通株式会社 歴史あるリユースの優等生 1.8L びんを支える「6本プラ箱」と「エコマーク」 パナソニック株式会社 AVC ネットワークス社 (現、パナソニック株式会社 アプライアンス社) 地上・BS・110度 CS デジタルハイビジョンテレビ「ビエラ」
銅 賞	株式会社スーパーホテル スーパーホテル Lohas JR 奈良駅の取り組み
プロダクト・オブ・ザ・イヤー	ダイエー浄化槽 FCE 型 [エコマーク認定番号：12 151 001] 大栄産業株式会社 ダイキ浄化槽 XE 型 [エコマーク認定番号：13 151 001] 株式会社ダイキアクシス 

「エコマークアワード 2013」講評——選考委員長 西尾チヅル氏（筑波大学大学院教授）

今回の受賞は、環境配慮の中でも特に資源効率や資源循環向上という難しい課題に積極的に取り組まれた事例ばかりです。このような取り組みは、開発者や関係者の高い志がなければ実現できなかったことだと思います。また、高度で先進的な技術だけでなく、サプライヤーが協力しやすい仕組み、特に再資源化しやすいシステムやリサイクルチャネルを構築することは非常に難しいことです。そのような仕組みの構築は他の企業の模範となるものであり、その重要な取り組みに対してエコマークをうまく活用されていることを評価いたしました。

今後も企業や組織、消費者、社会のコミュニケーションの手段としてエコマークが活用されることを強く願っています。



受賞団体によるパネルディスカッション 「消費者との環境コミュニケーションとエコマーク」

表彰式に続き、「エコマークアワード 2013」の受賞団体および前年「エコマークアワード 2012」で金賞を受賞された株式会社タカラトミーの参加によるパネルディスカッションが行われました。

はじめに、各受賞団体より受賞理由となった取り組みについて、株式会社タカラトミーには金賞受賞後のエコマーク商品普及活動事例について発表いただきました。

続くディスカッションでは、環境配慮をどのように「見える化」させるか、そしてサプライヤーや顧客、消費者の理解とつながりをどう深めていくかをテーマに、活発な意見交換が行われました。また、環境配慮型商品に対する気づきのツールとして、エコマークを活用されている各社の取り組み事例や課題について発表いただきました。初めからすべてを目指すのではなく、できることから取り掛かる姿勢や、自社の特性に合わせた情報の伝え方の工夫など、各社のチャレンジがわかる充実したディスカッションとなりました。

◆受賞団体によるプレゼンテーション資料は、エコマーク事務局ウェブサイトにてご覧いただけます。

(<http://www.ecomark.jp/info/forum/2013.html>)



パネルディスカッションの様子

エコマーク 2013 年度年次活動報告

プログラムの最後に、エコマーク事務局長 宇野治より 2013 年度の活動報告を行いました。

新 認定商品のご紹介

パックご飯（無菌包装米飯）にエコマーク認定商品が登場

単身世帯や高齢者世帯の増加により個食化が進む中で、加工食品などにおいて、内容物に対する容器包装の使用量が増加する傾向にあります。こうした状況を踏まえエコマークでは、2013年10月に商品類型No. 140「詰め替え容器・省資源型の容器 Version 1.7 ～分類C. 無菌包装米飯容器～」において、軽量化・薄肉化・減容化の評価を中心とする認定基準を制定しました。これを受け、越後製菓株式会社の「日本のごはん」が、同商品類型として第1号のエコマーク認定を取得しました（認定番号13 140 005）。

■無菌包装米飯の特長と環境配慮を両立

切り餅・鏡餅、米菓、米飯などの製造・販売を行う越後製菓は、「高圧処理」という独自技術を用いて、米と水だけを原料に使用した無菌包装米飯を製造しています。無菌包装米飯は、電子レンジで数分加熱するこ

とにより炊きたてのご飯に復元でき、また、常温で長期間保存できることから需要が拡大しています。一方、炊飯器などでご飯を炊く場合に比べて、無菌包装米飯では使用している容器包装の量が多いため、廃棄物の増加にもつながります。

こうしたことから同社では、簡便性や保存性といった特長を維持しつつ、包装資材を大幅に軽減した次世代型の米飯「日本のごはん」を開発し、無菌包装米飯として初めてエコマークの認定を受けました。

■容器包装の厚みを5分の1に低減

越後製菓では商品の開発にあたり、ラップで包んだような簡易包装のご飯をイメージし取り組みを進めました。従来の米飯容器は成型前のプラスチックシートの厚みが約600 μ mで、複数のプラスチック材料を接着樹脂で張り合わせた構成になっています。これに対して「日本のごはん」は、厚さ120 μ mのフィルムを用いて成型することにより、容器包装の量を大幅に削減しました。また、ポリプロピレンの単一素材にすることに成功し、接着樹脂由来の容器臭をなくしました。

容器包装の環境配慮のみならず、新潟県産コシヒカリを原料にして食味にもこだわり、賞味期限も1年まで伸ばし保存性を高めました。商品の開発においては、包装資材だけでなく機械設備など生産工程も見直す必要があります。構想から5年をかけて販売に至りました。

同社では、エコマークを表示した「日本のごはん」の販売により、環境配慮商品や省資源・リサイクルに対する消費者の認識向上につなげていく考えです。

◆越後製菓(株)のウェブサイト

<http://www.echigoseika.co.jp/>



エコマーク認定
の越後製菓(株)
「日本のごはん」
(商品パッケージと個包装)

リゾートホテルとして第1号のエコマーク認定

ビジネスや個人の旅行に使用されるホテルや旅館における環境配慮の取り組みは、施設の運営や利用に伴う環境負荷の低減に加え、利用者の環境意識の向上という面でも重要な位置づけにあります。

株式会社ホテルオークラ東京ベイは、これまでの環境活動を踏まえ開業25周年を機にエコマークの認定に取り組み、商品類型No.503「ホテル・旅館 Version 1.0」において2件目、リゾートホテルとして初の認定を取得しました（認定番号13 503 001）。

■広範な環境活動を推進

ホテルオークラ東京ベイでは、環境マネジメントシステムの構築・運用を通じて、事業活動に伴う環境負荷の低減に努めるとともに、グリーン購入ネットワークへの参加、浦安市が進める「浦安エコカンパニー宣言」に基づく宣言と実践などを通じて取り組みの充実を図ってきました。また、外部講師による研修などを行い、環境活動に対する認識を高めています。

消費電力削減に向けては、夏季に「節電パトロール」

を実施しており、事務所、従業員トイレ、仮眠室、倉庫、冷蔵庫、機械室などを対象に、不必要な照明の点灯、空調温度や照明の明るさなどをチェックし、改善を図っています。このほか、6月の環境月間におけるエコスタンプラリーやエコメッセージの実施、環境省推奨ライトダウンキャンペーン、浦安市主催の「ゴミゼロ運動」への参加など、幅広い活動を実施しています。

■顧客サービスと環境配慮の両立

ホテル事業においては、宿泊客の理解と協力を得ながら、快適性を損なうことなく環境負荷の低減に結びつけていくことが求められます。

こうした観点からホテルオークラ東京ベイでは、連泊客を対象に「ステイ清掃」が必要かどうかを示すカードを用意するとともに、清掃が不要な場合の特典として「GREENSHOES CARD」(カーボンオフセット付きQUOカード)の提供を行っています。客室のバスタブには、適量の水量を示すウォーターレベルシールを貼り、節水への協力を促しています。

また、宿泊客にエコドライブの実践を促すために、「エコドライブ10のすすめ」などの掲示や啓発チラシの

配布を行っています。さらに、電気自動車およびプラグインハイブリッド車用の充電スタンド2基を敷地内に設置するとともに、電気自動車のカーレンタルサービスを行っています。

ホテルオークラ東京ベイでは、リゾートホテルとしてのサービスの維持・向上とのバランスを重視しながら、今後も環境負荷低減に向けた取り組みを充実させていく考えです。

◆(株)ホテルオークラ東京ベイのウェブサイト

<http://www.okuratokyobay.net/>



(左上) エコマークの認定を取得したホテルオークラ東京ベイ(外観)



(左下) ボードに貼られた440枚のエコメッセージカード



(右下) 環境省推奨ライトダウンキャンペーンへの参加

認定基準に関するお知らせ

認定基準の制定

以下の認定基準が制定されましたので、お知らせいたします。

類型番号	商品類型名	制定日	有効期限
155	複写機・プリンタなどの画像機器 Version 1	2014年5月1日	2021年4月30日

◆認定基準は (<http://www.ecomark.jp/nintei/>) をご覧ください。

〈商品類型 No.155「複写機・プリンタなどの画像機器 Version 1」について〉

基準の策定 (No.117「複写機 Version 2」、No.122「プリンタ Version 2」認定基準の全面的な見直し) にあたり、特に使用段階のエネルギー消費について、先導的なレベルの基準値を設定したほか、総合的な環境負荷低減を目指し、資源循環に貢献する製品設計や使用済機器・消耗品の回収の仕組み、トナー・インク等の化学物質、TVOC (総揮発性有機化合物) や微粒子の放散の基準値等についても大幅に強化しました。また、

海外環境ラベル機関との相互認証のさらなる推進を念頭に、ドイツ ブルーエンジェル RAL-UZ171「プリント機能付き事務機器」(2012年7月制定) および「国際エネルギースタープログラム」基準 (2014年1月発効) との整合を図ったほか、グリーン購入法 (国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律) での対象機器 (ファクシミリ、スキャナ) も対象範囲に加えました。

認定基準の改定

以下の認定基準の部分的な改定を行いましたので、お知らせいたします〔改定日：2014年4月1日〕。(VersionのNo.は改定前のもの)

商品類型名	改定のポイント
137 建築製品（外装・外構工事関係用資材）Version 1.7 分類 D-2 ～木材・プラスチック再生複合材～	品質に関する基準の要求事項の明確化（エコマーク認定の際に確認する JIS の範囲の明確化）
150 電球形 LED ランプ（A 形）Version 1.0	省エネ法におけるトップランナー制度の対象化との整合（ランプ効率数値の引き上げなど）
106 情報用紙 Version 3.3、107 印刷用紙 Version 3.3、 108 衛生用紙 Version 2.8、112 文具・事務用品 Version 1.16、 113 包装用紙 Version 3.2、114 紙製の包装用材 Version 2.8、 120 紙製の印刷物 Version 2.5、130 家具 Version 1.8	グリーン購入法の見直しにあわせた用紙関係の「用語の定義」の変更

◆改定点の詳細については（http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/）をご覧ください。

2014 年度以降に取り組む新規商品類型の選定結果について

2014 年度以降に取り組む新規商品類型について、昨年 10 月 1 日から 31 日に新規商品類型提案の募集を行いました。寄せられた提案ならびに事務局からの提案を踏まえ、エコマーク企画戦略委員会で審議した結果、右記の案件について、2014 年度以降に着手する新規商品類型化の候補としてさらに継続検討することとなりました。

- 新規商品類型化の候補として継続検討とする案件
 - ・環境負荷低減型接着剤
 - ・冠婚葬祭サービス
 - ・繊維廃材製道路標識・道路付属物〔既存商品類型に追加を検討〕
 - ・植物由来（非生分解性）プラスチック製品・合繊製品
 - ・新ケミカルリサイクルプロセスによって生産される繊維のエコマーク認定基準への適合検討願ひ〔既存商品類型の見直しの中で検討〕

委員会報告

運営委員会（第 32 回）

第 32 回運営委員会が 2014 年 3 月 13 日に開催されました。議事内容は以下のとおりです。

〈議事内容〉

1. 2013 年度（平成 25 年度）エコマーク事業報告

2. 2014 年度（平成 26 年度）エコマーク事業計画および予算（案）について

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/office/organization/steering_data/）をご覧ください。

基準審議委員会（第 14 回）

第 14 回基準審議委員会が 2014 年 2 月 13 日に開催されました。審議事項は以下のとおりです。

〈審議事項〉

1. エコマーク商品類型（認定基準）案について
2. エコマーク商品類型（認定基準）の部分的な改定に

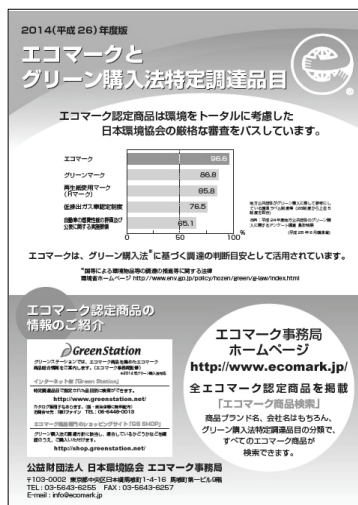
ついて（P.6 参照）

◆資料等詳細は（http://www.ecomark.jp/office/organization/deliberation_data/）をご覧ください。

トピックス

2014 年度版パンフレット、カタログのご案内

エコマークとグリーン購入法特定調達品目の対応関係をまとめたパンフレット「2014 年度版エコマークとグリーン購入法特定調達品目」を作成しました。入手をご希望の際は普及・国際協力課までお問い合わせください。エコマーク事務局ウェブサイトからもダウンロードいただけますので、あわせてご活用ください。
(http://www.ecomark.jp/pdf/g_eco14.pdf)



「2014 年度版エコ
マークとグリーン
購入法特定調達品
目」パンフレット



グリーンステーションカタログ 2014 年度版

また、エコマーク認定商品を掲載したグリーンステーションカタログ 2014 年度版が完成し、発行元の(株)ファインより地方公共団体等に配布されています。本カタログの入手および商品情報掲載については、(株)ファイン（電話：06-6448-0004）までお問い合わせください。インターネット版は随時最新情報に更新されますので、そちらもご活用ください。(http://www.greenstation.net/)

東海三県一市グリーン購入キャンペーンイベントに参加しました

2014 年 1 月 15 日から 2 月 14 日の 1 か月間、愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市中において「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」が実施されました。エコマーク事務局は実行委員として本キャンペーンに参画しており、期間中は下記のキャンペーンイベントに出展し、グリーン購入の普及と定着を図るため、日常生活に身近な多種にわたるエコマーク認定商品を展示、紹介しました。

- 1月25日(土)、26日(日) テラスウォーク一宮：愛知県主催（ユニー株式会社と協働）「テラスエコ博 東海三県一市グリーン購入キャンペーン」
- 2月2日(日) モレラ岐阜：岐阜県主催 グリーン購

入啓発展「すすめよう！環境にやさしいお買い物」
○2月7日(金) イオンモールナゴヤドーム前：名古屋
市主催「グリーン購入啓発展示」

愛知県での
キャンペー
ンイベント
の様子



「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加しました

2014 年 3 月 23 日に開催された「こどもエコクラブ全国フェスティバル」に参加しました。こどもエコクラブの自主的な環境活動をまとめた壁新聞をもとに選

ばれた、全国 47 都道府県の代表クラブが集い交流を深める、年に一度の大きなイベントです。

エコマークが今年 25 周年を迎えた記念として、壁新

聞部門に「エコマーク賞」が設けられ、受賞された福井県の「吉崎赤手ガニ環境調査隊」に、エコマーク事務局より表彰状が授与されました。

各クラブの活動発表や表彰のほか、環境への取り組みを紹介する企業・団体のブース展示も行われ、エコマークでは全国の子どもたちに活動内容などを紹介しました。展示コーナーには、エコマーク使用契約企業から株式会社イトーキと株式会社エフピコが出展しました。

「こどもエコクラブ全国フェスティバル」
壁新聞部門表彰式の様子



お知らせ

イベントのお知らせ

エコマーク事務局は、6月の環境月間に下記のイベントに出展します。ご来場の際は、ぜひエコマークブースにお立ち寄りください。

○6月1日(日) ふっさ環境フェスティバル(東京都福生市:中央公園)

○6月7日(土)、8日(日) エコライフ・フェア2014(東京都渋谷区:代々木公園)

エコマーク事務局からのお知らせ

■エコマーク事務局大阪デスクを開設します

エコマーク事務局は、6月に西日本の拠点となる大阪デスクを開設します。毎月1回、エコマークスタッフが駐在し、エコマーク認定取得に関するご相談やグリーン購入などの問い合わせに対して直接お答えいたします。ぜひご利用ください。

○日時:原則毎月第3週木曜日 10:00~17:00(詳細はエコマーク事務局ウェブサイトでご確認ください。)

○場所:おおさかATCグリーンエコプラザ内

(アジア太平洋トレードセンタービルITM棟11F、トレードセンター前駅下車)

※相談にお越しの際は、お手数ですが電話にて事前のご予約をお願いいたします。

(基準・認証課 電話番号:03-5643-6253)

■エコマークメールマガジンのご案内

エコマーク事務局では定期的にメールマガジン「エコマーク広報」を配信しています。メールマガジンのご購読は、エコマーク事務局ウェブサイト(http://www.ecomark.jp/eco_mail/)にて、または右記QRコードにアクセスしてご登録いただけます。エコマークに関する最新の情報をお届けしていますので、ぜひご登録ください。



メールマガジン
登録用QRコード

エコマークニュース 第92号 2014年5月1日発行

編集・発行/公益財団法人 日本環境協会 エコマーク事務局

〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-4-16 馬喰町第一ビル9F

TEL: 基準・認証課 03-5643-6253 FAX: 03-5643-6257 (各課共通)

総務・契約監査課 03-5643-6255

普及・国際協力課 03-5643-6255

Homepage: <http://www.ecomark.jp>

E-mail: info@ecomark.jp



エコマークは(公財)日本環境協会の登録商標です。